

千代田区の現状とこれから

山田 丈夫会員

はじめに、本年4月に区議会議員を引退致しました。2期8年議員を続けてこられたのもご支援を頂いた皆様の支えがあったからこそだと感謝しております。

8年前、石渡伸幸さんが引退するときの後継者として私に白羽の矢が立ちました。私自身が石渡さんの後継者として選挙に立つかどうか考える時がきて、年齢、家族の説得、自分の仕事こと、いろいろ片付けてクリアにしてから返事をすることにして時間の猶予を頂きました。

一般的に60歳を超えて議員に立候補する人は多くはいません。当時私は還暦を迎えており初めて経験する議員生活ができるかどうか考えました。体力面は自信がありました。家族からは、思うようにやれば、あとは家族で応援をするからと返事をもらいました。

60才になった頃から、地域のためになることができる活動はないかと考えていました。大学を卒業後今の会社、曙興業に入社しましたが、そのご縁で町会活動をしていくうちに、町会の皆さん、近隣町会の方や、連合町会の方たちとも親交を深め、とても良いお付き合いをさせて頂きました。千代田区でいろいろな経験をし、社会人として育てて頂いたように思っておりましたので、ご恩を地域の皆様に少しでもお返しすることができるのではと運命的なものを感じました。

石渡さんに立候補の意思を伝え、後援会の皆様から後押しいただき、千代田区議会議員選挙に立候補いたしました。お茶の水ロータリーの会員の方々には、千代田区在住の方などいろいろとご紹介いただき、千代田区内を引き回していただいたりしました。本当に心強く思い、ありがたい気持ちでいっぱいでありました。議員という経験は、大変なこともありましたが自分にとって大変有意義なものでありました。ご支援いただいた皆様には心から感謝いたします。

今時代の大きな転換期を迎える中で、千代田区は、あるべき姿を明確にし、進むべき道を示そうと、区政運営の最上位の位置付けの指針「千代田区第3次基本構想」を20年ぶりに策定し「第4次基本構想」に改めました。

本区の人口推計結果では、当分の間増加傾向が続く見通しであり、全国傾向とは異なる特徴があります。そのため、日本の人口減少に伴う労働力の不足など全国的な課題を捉えながら、今後も複雑化、多様化していく行政需要に対応していかなければなりません。加えて、区を取り巻く社会情勢は変化が激しく、これまで以上に変化の要因やスピードが増加することが想定されます。

新たな基本構想は、時代の変化により色あせることのない普遍的な将来像を示すことによって、多くの方々と向かうべき方向性を共有するとともに、変化に対してより一層柔軟な対応のできる行政運営を推進してまいります。

令和5年度は、新たな基本構想の初年度です。社会経済情勢の変化を的確に捉えつつ、デジタルの力を活用しながら、様々な課題の解決を図るため果敢にチャレンジし、区民一人ひとりの皆様が幸福ですべてにおいて満たされる様その実現に向けて邁進してまいります。他に大きな取り組みとしては、三つ挙げています。

1. デジタルトランスフォーメーション (DX) の取り組み

昨年4月に「千代田区DX戦略」を策定し、それに伴い行政運営のデジタル化を一層推進するために、今年度

より、デジタル分野に精通した副区長を一人増やして取り組んでまいります。この戦略で掲げた「顧客志向の追求」「行政内部の変革」「情報資産の管理と運用」を基本理念として、デジタル技術を活用した区民の利便性と職員の生産性の向上を目指し、DXの取組みにチャレンジしております。

2. 新型コロナウイルス感染症対策について

感染症法上5類に移行した現在は、感染者の発生の届け出も行動や就業の制限もなくなりましたが、高齢者など、重症化リスクの高い方を守るための取組みは、継続していかなければなりません。このため、ホテル療養や入院調整につきましても継続することとし、高齢者施設のクラスター防止策などの必要な支援を継続してまいります。

3. 物価高騰対策について

中小企業者の事業経営を資金面から支援することを目的に商工融資あっせん制度を設け、事業者が低利で融資を利用できるよう、区が利子の一部を補給するとともに、一部資金について代表者が区民の場合は信用保証料の補助も行っています。

令和5年度は、利率の本人負担率が低い新資金「経営サブプリ資金」を設けるとともに、資金の借款需要に応えられるよう、融資限度額が高く、融資期間も長めに設定した新資金「借款一本化資金」を設けることで、特に環境変化の影響を受けやすい小規模事業者の経営を下支えします。他にも商工融資斡旋制度がいろいろ種類がありますので、千代田区に会社を持たれている方で融資を受けてみようと考えている方は、区に問い合わせして頂きたいと思います。私も微力ながらお手伝いできることはさせて頂きます。

新しくなりました区議会について私の考えですが、少し話をさせて下さい。

今回の選挙で思ったことは、自分が行ってきた今までの選挙とは大きな違いがあるように感じました。今までは、近隣町会の方や団体所属の役員の方やご紹介を頂いた方などにアポイントを取って挨拶にお伺いしていました。「どぶ板選挙」で、1回の挨拶ではなく2回3回と訪問すると、顔や人柄などを見て頂けるので、そのことを心掛けて行っていました。そのほかに後援会の会合や区議会の活動報告など開いていました。

今は、ZOOMで後援会の会合の開催や、Youtubeライブなどネットを使った選挙運動が重要になってきているようです。有権者もネットを使うライフスタイルに変化してきているように思います。今回の区議選でもネットの運動だけで活動した方もいたようです。

自民党は改選議席が10名でした。過半数に届きませんが第一党になれたはずですが、6名と4名に分裂してしまい、「次世代・国民民主・都民ファースト・立憲の会」に第一党を奪われ1997年以来26年ぶりの自民党以外の議長が誕生しました。元自民党区議としては大変残念な結果となってしまいました。自民党が票を大きく減らして、都民ファーストの会と日本維新の会が大きく伸ばして、国民民主党も議席を確保しました。また、共産党が2議席失って1議席のみとなる結果となりました。議長の任期は2年です、新たにできた会派は、烏合の衆です。新人も多く議会運営が滞りなく行えるか心配しております。今後政策の違いや仲間割れなどあるかもわかりませんが、自民党の10人が、自民の旗の元、一致団結して安定的な区政運営を担って頂きたいと願っています。